

個別面談によるあかしSDGs推進審議会委員の意見まとめ

■ まちづくり戦略

○ 「全体」

- ・まちづくり戦略は、資料を読むだけでは分かりにくいと感じたが、方向性を示しているという説明を聞いて理解した。まちづくり戦略が方向性というレベルであるならば、言葉選びが変わるものかもしれない。総合計画の目標とまちづくり戦略が重複した目標のように感じたが、そうではないことを理解した。
- ・計画全体に対して、しっかり考えられており、特に何か言う必要性は感じていない。市のまちづくりに関する計画なので、市の方針に基づいて、市職員が理解できる内容であれば良いと考える。
- ・説明を聞いて、理解できた。
- ・全体として市民に伝えるにはこれでいいと思う。100%というのは、みんながという意味なので、このままでよいし、“もっと”もさらにやっていくという意味だと思っているので違和感はない。
- ・特に異論はない。
- ・作成の意図は理解した。まちづくり戦略について意見は特にない。
- ・全体像がつかみ切れていたかったが、説明を聞いて枠組みが理解できた。
- ・特に不具合があるとは感じておらず、現状の案で進めて行けば良いのではないか。
- ・書かれてある内容は、今まで審議会で話してきた内容であり、これでいいと思っている。特に付け足すこともない。“もっと”も、“共創”も新しい言葉ではあるが、今までの流れから外れておらず、良いと思っている。
- ・まちづくり戦略を置いた意図は理解した。住みやすいと思う人100%、人口30万人という目標を掲げて色々な施策を強化したり、テコ入れしていくことなので、明石に住む者として良いと思う。
- ・総合計画自体を変更しようとしているわけではなく、「こどもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」の方向性を変えようとしているわけではないことは、理解しているが、市長の任期は、4年なので、自治基本条例でいう普遍的な内容を中心に記載いただき、市長の思いである対話と共創によるもっとやさしいまちの創造というのは、計画に盛り込む必要はない。
- ・明石市では、多様な市民を対象に誰にもやさしいまちづくりを展開しており、女性やLGBTQなどの取り残されやすい声は何なのかということを考え、ジェンダー平等推進条例や市民参画条例を整備して、市民というものを深堀してきた。もっとやさしいまちの創造に向けて、「すべての人」という表現をしているが、その中には、マイノリティが含まれていると一般市民として認識してもらいにくいと感じるので、女性や障害者など誰一人取り残さないというメッセージがきちんと伝わるよう工夫してもらいたい。

○「対話と共創」

- ・対話と共創のまちづくりは、手段であって目標ではないということがわかった。SDGsとの関係について、SDGsの考え方をベースにあって、対話と共創が出てきて、対話と共創はSDGsにおけるパートナーシップであるということがわかった。
- ・対話と共創について、タウンミーティングで話をして声を聞くことも大切だが、一般の人から話を聞くことに加えて、各団体の代表とも話をしてもらいたい。代表はその分野についてよく知っていて、しっかりととした話し合いができる人たちである。まち協は自治会の面倒を見たり、横の繋がりを活かして、他の校区の例を伝えて繋いだり、地域をコーディネートする役割を担っている。そして、市役所の手足となって、まちづくりに関与している。だからこそ、28校区のまち協の代表とも、しっかりと市長が話を聞く機会を設けてほしい。市長に地域課題を聞いてもらいたいという思いである。
- ・対話と共創の「対話」を何か次のステップを示すような言葉に変えられないかと感じる。
- ・対話と共創について、対話した中から、全部は出来ないだろうけれども、具体的に実行していく時期ではないか。いつまでも対話だけでなく、市民の目に見える形で、具体的に出していくタイミングである。市民に伝わるように、市民が生活の中で変わったなど感じられることが大切と考える。
- ・協働からグレードアップしたという認識で、共創でいいのではないか。対話を進めていく必要性は感じるので、足りていないと言われる部分があるならしっかりと取り組めば良い。
- ・対話と共創について特に拘りはなく、市が力を入れて進めたいと思われているのであれば、記載し取組を進められたら良いと思う。協働というと地域との連携をイメージするが、それだけではなく、これからは、民間企業や大学との連携を進める共創に力を入れるべきと考える。
- ・対話と共創については、タウンミーティングなどに行っている人は、市に声を届けたいと思っている人が参加していると思うので、みんなの意見が市に届いているかというと、そうではないと感じている人が一定数いるのではないか。コミュニティの現場では、まちづくり協議会と地区社会福祉協議会の違いも分からぬ人も多く、また、各校区によって活動に地域差がすごくある。地域の人が新たなことをしようと意見を出しても、トップがうんと言わなくて進まない地域があると聞く。新しい人が転入てきて、若い人のグループは出来るが、地域の高齢者グループとギャップがあり、世代間でバラバラになっている。ボランティア連絡会でも校区ごとに集まって横のつながりづくりを年1回行っているが、ここでも、地域差があり、ほぼ知り合いという校区もあれば、お互いに知らない人ばかりという校区もある。市で何か取り組もうとしても、それぞれ団体・地域ごとに、状況が違う。そういう意味で、対話や共創を進めていく必要性は理解できる。

- ・「対話と共創」と書いてあるが、後期戦略計画の策定に当たっても、タウンミーティングやワークショップで数十名の一部の市民の話を聞いただけではないか。こんな方法で市民の声を聴いたということ自体がおかしい。
- ・対話と共創のまちづくりについて、なぜ、こうした冗長的な表現を今、ここに入れる必要があるのか。共創元年をいつ宣言したのか、誰が認めたのか。共創は何かということは書かれてあるが、具体的にどのように展開しているのかも全く見えない。なぜ市長が発言した内容をこの計画に記載しようとするのか。
- ・自治基本条例にある「情報の共有」「市民の市政参画」「協働のまちづくり」という言葉を用いたら足りるのではないか。5か年の計画になるので、自治基本条例の表現を記載した方がいい。対話と共創を追加しないといけない固定観念があるのではないか。自治基本条例の言葉を入れてもらえば納得できる。自治基本条例の言葉であれば反対はない。
- ・ワークショップやタウンミーティングというような方法ではなく、例えば、市民説明会など、きちんとした方法でやるべきではないか。タウンミーティングなどは限られた少数の市民しか参加していないので、大きな事業をするのであれば、市民説明会が欠けているのではないか。
- ・市民病院や卸売市場について、今年度の施政方針に記載されていたが、もっと市民と対話する、市民の声を聴くという対話と共創の精神を生かしてもらいたい。

○「人口戦略」

- ・人口について、人口を維持するための施策と、人口が減少しても安心して暮らせるまちづくりについて、両方書いてもらつたらいい。
- ・人口について、住みやすいまちの指標として、人口30万人を維持したいという趣旨は理解できるので現状のままで良い。
- ・人口については、明石には住んでいるが、神戸や大阪に働きに出るというベットタウンになるような人口増だけを目指すのではなく、明石で働く環境や働きやすい職場をつくって、明石に住んで明石の事業所で働いてもらうというのが良いと考える。通勤に時間をかけず、時間的なゆとりを持てるような生活モデルがよい。明石でこのもの人口が増えているが、大学進学で市外に出てしまい、そのまま明石以外で就職してしまうことが多いので、明石に帰ってきて働いてもらえるためのPRや施策が必要と考える。企業側にとっても、人の確保が難しくなっている。人口が一定数あることは、従業員の確保という面からも大切である。
- ・人口30万人の目標も、前向きな指標でありいいと思う。
- ・将来人口推計について、目標値ということで理解した。ただし、達成のための具体的な施策が必要。
- ・人口が減ることがいいとは思っていないが、明石だけ特別な状況が続くとも思っていない。そういう意味では、明石市がこれからどういう方向にいきたいのかビジョンが見えてこない。対話と共創だけでは人は増えない。人は増やさなくてもいいの

で、できるだけ維持してもらいたい。計画の目標である人口30万人を維持するという主旨で、取組を記載するのであればそれでいい。増えるという認識の計画では困る。基本的に人口が減るという前提に立った計画であれば良い。ごみの問題についても、将来にわたって人口が減らない前提で議論されるのではなく、人口が減少するという前提で考える必要がある。

○「体系図」

- ・体系図について、総合計画の下に矢印が出ているので、総合計画を別のものに変えていくかのように見えるので、矢印を削除して、表現を変更してはどうか。

■ 柱1－1【脱炭素社会の実現】

○「再生可能エネルギーの利用促進」

- ・前回の審議会でも意見を言ったが、八幡市の石清水八幡宮の周りが太陽光パネルだらけになるところだった。計画を知った住民が市に駆け込んで、最終市が土地を買い取ったが、次は議会で土地を買い取ったことについて、余計な出費だったのではなく追及されて・・・、といったことがあった。太陽光パネルは、永久機関ではないこと、メンテナンスが必要であること、地盤への影響もあることから設置には慎重になるべきと考える。
- ・少し前は、学校施設に太陽光発電を設置しようとしたら、屋上の防水や耐震など課題がいくつかあった。今は軽量のものやヘロブスカイトという新しい技術も出ているので、新たな技術の導入に向けた検討も進めてもらいたい。

○「温室効果ガス排出量に関するKPI」

- ・KPIについて、温室効果ガスの排出量は残しておいた方が良い。
- ・温室効果ガスの排出量削減について、今やっている施策でどのくらいの削減ができるのかをきちんと確認しないといけない。優良事業者数の表彰者数では状況は把握できない。優良事業者数をKPIとすることは、目標を矮小化し過ぎではないか。温室効果ガス排出量の実績値の把握には3年かかることを前提としていることを書いたらいいのではないか。脱炭素のKPIとして、事業者の表彰制度では市の意向でいかようにもできる可能性があるので、KPIとしては相応しくないと考える。

■ 柱1－2【循環型社会の実現】

○「新ごみ処理施設の整備」

- ・新ごみ処理施設について、技術的なことは素人には分からぬが、800億という数字ばかりに目が行く人が多い。これまで専門家が集まって議論してきた経過がある。そこに意見が反映されていないことを理由に対話できていないとは言えず、話を聞いていないことはないと思っている。

- ・人口が減っていけば、ごみも減る。我々も報酬をもらい、責任ある発言をしていく必要があると思うので、KPIが正しいかどうか、きちんと説明をもらわないといけない。ごみの排出量は客観的で数値なので、きちんとした検討が必要ではないか。ごみ処理施設の建て替えを止めるとまでは思っていない。ただ、年間の維持管理コストも大きいので、規模が適切かどうか気になる。この審議会で、個々の事業について、一から議論していくことはできないことは理解している。本当に市民参画プロセスをきちんと経たと言えるのかということが言いたい。新ごみ処理施設についても、国の方針転換に沿うような整備内容となっているのか。

○「ごみの排出量に関するKPI」

- ・ごみの排出量のKPIについては、総量とする理由をお聞きして理解した。検証に当たっては、ごみの種別の内訳や取組内容などを提示いただけるのであれば良いと考える。問題意識としては、家がどんどんつぶされて、建て替わっており、事業ごみが増えているのではないかという仮説をもっている。事業系ごみの対策が必要と考える。

○「指定ごみ袋の導入」

- ・指定ごみ袋の件は、他都市でも広く実施されており、取り組むべきと考える。

■ 柱1－3【自然環境の保全と活用】

○「ため池・農地の保全と活用」

- ・田んぼがどんどん埋め立てられて宅地になっている。以前はカエルの鳴き声がきこえるのどかな感じが良かったが、いまはカエルの鳴き声など聞こえない。明石の良い自然環境が失われていくことに危惧しているので、保全と活用をお願いしたい。
- ・ため池についても、水辺を生かすような方策があればと思う。

■ 柱2－1【支え合う地域づくり】

○「小学校区単位の協働のまちづくりの推進」

- ・まち協の役員や事務局の職員が長くなると、運営は安定するが、人が代わっても対応できる組織づくりが必要である。自治会は、1年限りの会長も多く、できるだけ手間を減らし、自治会をつぶさないような工夫をしている。まちづくり協議会の事務局に2人雇っているが、事務作業で手一杯であり、チラシやポスターを作り、ポスティングするサポーターを雇った。何をするにしても人件費がかかるので、市の支援をお願いしたい。PTAがなくなってきており、今後、親の声を聞く機会がなくなってくるのではないかと危惧している。校区で行事を行うにしても、組織的なPTAは無くなり、単発のボランティアを募っている状況。今後も、こうした活用が継続できるのか分からぬ。
- ・新しい人は増えているが、自治会には入らない方が多く、それでいいのかと疑問を

持っている。

■ 柱2－2【自分らしくいくことができる社会づくり】

○「インクルーシブ施策」

- ・インクルーシブ条例の記述については、明石市がインクルーシブ施策ときちんと進めるという決意が現れた条例でもあるので、そこはきちんと記述してもらいたい。

○「女性活躍の推進」

- ・女性が活躍し、社会に参画するために、さらなるサポートが必要と考える。

○「高齢者施策の拡充」

- ・誰一人取り残さないというところで、子どもも大切だが、高齢者施策についてもしっかり取り組んでほしい。

○「認知症の人や家族への支援の充実」

- ・認知症の方が住み慣れたところで本人らしく住み続けられるように取組を推進いただいていることは有難いが、介護をする家族へのサポートがもう少しあればと感じている。オレンジサポーターの養成など、認知症に対する理解が進むことは、対応を間違えると本人も戸惑うことになるので、有難く思っている。同様に障害、精神疾患のある方やひきこもりの方への関わりも難しいと感じており、理解がもっとすすめばよいと思っている。

○「多文化共生社会の実現に向けた取組」

- ・外国人の方が、明石でも増えており、お父さんは仕事に行き、子どもは学校に行き、すぐに社会になじむが、お母さんが知り合いもできず、孤立しているのではないかと感じている。子どもが学校から持つて帰ってくるプリントも読めず困っているとも聞く。そういうたった外国人のお母さん方を集めて、日本語教室などの支援が必要を感じる。

■ 柱2－3【健康・長寿の推進】

○「子どもの健康」

- ・学校で一人1台タブレットが配られ、子どもが学校でも家でもタブレットやスマホを見続けている。便利だが、健康面に配慮されているのか心配。依存や視力、姿勢などの問題もあるので、便利さを享受しつつも、健康面にも目を向けていく必要がある。そこで、利用時間の調査を行う等対策の検討や、注意喚起のパンフレットを作成するなどの取り組みが必要ではないか。

■ 柱3－1【安心して子どもを産み、子育てができる環境の整備】

○「こども誰でも通園制度」

- ・待機児童が解決していない中で、この制度を計画の中に入れる必要があるのか。もし、同制度を進めるのであれば、待機児童ゼロをKPIにするなどして、待機児童の問題から解決すべきであると考える。

■ 柱3－2【一人ひとりに応じた質の高い教育の推進】

○「展開の方向」

- ・審議会でも発言したが、柱3の展開の方向2の「一人ひとりに応じた質の高い教育の推進」を「インクルーシブで質の高い教育の推進」に変更してほしい。

○「インクルーシブ教育の推進」

- ・計画的な就学支援を「ともに学び育つ教育を実現するための計画的な就学支援」と変更してほしい。
- ・一般的な質の高い教育の推進も大事であるが、インクルーシブ教育の重要性も改めて考えてもらいたい。

○「教育施策の推進に関するKPI」

- ・インクルーシブ教育に関するKPIを定めてはどうかという意見があったが、気持ちとしては同じである。ただ、この施策全体のKPIとしては、現状のKPIくらいにならざるを得ないかと思う。せめて、インクルーシブ教育に関するKPIをサブの目標として設定することはできないか。

○「食育の推進」

- ・小学校で給食の試食会があり参加をしたが、栄養士の先生から予算が少ない中、献立をしているとの話があった。給食費を上げにくいのはわかるが、地産地消を進めほしい。給食に対して、市から別途予算組みいただいていることをお聞きして安心した。お金がないのでドレッシングを手作りされていると聞いたが、工夫することは大切だと思った。

○「コミュニティスクールの推進」

- ・コミュニティスクールの推進に当たって、困っている地域が多い。二見北では、学校とうまく連携がとれ、管理職ではない現場の先生方がどう考えているのか、話をしたいという思いから、全教員と地域とで定期的に会議を持っている。しかし、校長が変われば、そうした状況も変わる可能性がある。学校と地域がうまく連携できるよう教育委員会において仕組みを検討いただきたい。

■ 柱3－3【こども・若者の状況に応じた適切な支援】

○「こども・若者の居場所づくりの推進」

- ・県で高校生・受験生自習室プロジェクトが実施されており、市の施設も登録されているが、電話予約となっている。インターネットで予約できるようになれば利用率も上がると思う。

○ 「様々な事情のあるこどもへの支援」

- ・こども食堂でも、希望者はいるがすぐにいっぱいになってしまうという実態がある。本当に困っている人に届いていないのではないかという思いがある。また、夏休みに給食がないとご飯がない子どもがいるとも聞く。フードドライブも施設やグループが優先で、個人にはなかなか届かない。困っている人にはその情報すら届いていないのではないか。支援を必要としている人に必要な情報を届けるシステムがあればいいと思う。

○ 「こども施策の継続性」

- ・以前の職場で、きんもくせいプロジェクトについて、こども達に一度渡し始めるとやめることが難しいこと、こどもへの指導にも関わることなので、ずっと続くものなのか市に聞いたら、いつまで続くかはわからないと回答されて、困ってしまったことがあった。こどもに関わる事業は、継続性が重要だと考える。

■ 柱4－1 【防災・感染症対策の強化】

○ 「備蓄物資の充実」

- ・防災の備蓄について、総合安全対策室と話をする機会があったが、人が増えているのに、備蓄物資が少ない印象を持った。防災に関しては、企業も連携して取り組みたい。

○ 「自助・共助の推進」

- ・何かをしようとしても、個人情報の壁で情報を得られず、ネックとなることがある。災害等の際に、グループで支援をと思い計画をしたが、個人情報の壁でうまくいかないことがあった。支援をしたくてもどのような対応が必要なのか、何に気を付けなければならないのかわからず、家族の了承がないと難しい。災害時の要援護者への支援について、市として取組をさらに進めてほしい。

■ 柱4－2 【日常の安全・安心の確保】

○ 「地域防犯力の向上」

- ・防犯カメラの設置には補助があるが、ランニングや点検にコストがかかる。加古川や高砂では市が整備を主体的に進めているので、明石市でも同様に進めてもらいたい。
- ・防犯カメラの設置について、神戸三宮の事件などがあつたりするので、防犯という意味ではカメラ設置を充実させる必要があると考える。

○「地域医療の充実」

- ・ベビーブームの世代が高齢者となるので、医療に関する需要も高まっていく。医療体制をしっかりと守って欲しい。市民病院についても記載はあるが、明石市には、がんセンターや医療センターもあるので、市民病院との更なる連携を期待する。医療環境が良いと、市民に安心が広がり、転入者を呼び込むことにもつながると思う。

○「交通安全対策の充実」

- ・来年4月から16歳以上に青切符が導入されるなど、自転車の交通ルールが厳しくなる。歩行者や自転車に乗る人、車を運転する人がきちんと交通ルールを理解して、すべての人にとって安全な利用環境を整備する必要がある。

○「有機フッ素化合物（P F A S）への対応」

- ・P F A Sに関する報道が、明石川流域と言っているため、明石での問題のように感じるが、これは全国的な問題で、明石特有の問題ではない。すでに明石市でも国と連携して取り組まれていることもあると思うので、しっかりと発信し、地道に取組を進められたら良い。

■ 柱4－3【誰もが利用しやすく安全で強靭な都市基盤の整備】

○「安全で強靭な都市基盤の整備」

- ・ハード整備に対するマイナスのイメージがあるかもしれないが、市民生活や企業活動を考えると整備しなければならないものは、整備しなければならない。事業者も各種税負担をしており、安全・安心のまちづくりのためにもきちんとインフラは整備してもらいたい。

○「公共交通ネットワークの維持・充実」

- ・高齢者のバス運賃が半額なのは、すごく助かっている。自分の住んでいる地域はバスの本数が多いので、便利であるが、たこバスは便利だが本数が少ないと聞いてるので拡充が必要ではないか。

○「安全で利便性の高い幹線道路の整備」

- ・交通関係で、市内の大型車両の通過を減らせないか。明石西ICから東が有料なのもあって、浜国道を大型車両が走ったら、危ないと感じている。市でできることではないかもしれないが、対策が必要と感じる。

○「安全で快適な市街地環境の整備」

- ・家を簡単に壊して建ててしまっているが、建築の許可はどのようになっているのか。道の安全や景観への配慮はあるのか。家が建つことで、ガードレールがなくなり、

道路の安全も心配している。環境面でも、家が建て替わり、土がコンクリートで固められてしまうことで、土地に浸水しない状況となっている。市は一方で豊かな海をと言っているが、もう一方でこのような状況を許してしまっているのではないか。

○「空き家対策の推進」

- ・お年寄りが施設に入ったりして、空き家になるケースが増えており、親戚が掃除や植木の手入れを行っている家はいいが、そうでなければ、植木が大きくなりすぎ近隣に迷惑が掛かっていても、どうすればいいのかわからず困っている人がいる。空き家について身近に相談する窓口が必要と感じる。

○「スマートインターチェンジ」

- ・スマートインターの取組について、行政が検討といつても、予算を伴った検討を行うということは進めるということではないのか。検討した結果、途中で止めるということはあるのか。大久保北部の丘陵地の自然環境への配慮を十分にお願いしたい。また、きちんと話し合いをした上で、進めていってもらいたい。

■ 柱5－1【地域産業の振興】、柱5－3【まちの魅力を生かした賑わいの創出】

○「地域産業の振興、観光振興」

- ・計画全体として、産業振興や観光振興に関する記述が少ないという印象である。もう少しあってもいいのではないかと思う。子育て支援や高齢者支援など、手厚ければ手厚いほどいいと市民の方は思うのだろうが、原資をどうするのかという問題がある。子育て支援など市民への支援を続けるために、歳入確保の観点からも、事業者の活性化を図り、収税をあげていく必要がある。優良な企業が明石にあり、そのことが周辺のまちづくりにも良い影響を与えるという状況になればよい。

■ 柱5－2【豊かな心を育む文化・芸術の推進】

○「文化・芸術の推進」

- ・文化関連の取組で、勤労福祉会館で写真展があったとの新聞記事をみて、素敵な写真を展示してあるのに、勤労福祉会館では関係者でないとわざわざは行かないのではないかと思う。特に関心の無いような人でも、道すがら文化・芸術に触れることができるような取組をして欲しい。そういう取組が増えれば、まちがグレードアップすると思う。

○「個性豊かで美しい都市景観の形成」

- ・生活水準が上がれば、まち自体の佇まいに目がいくようになるものなので、乱雑な街並みにならないように、長期的に取り組むことができればと思う。

■ 柱5－3【まちの魅力を生かした賑わいの創出】

○「明石の海岸線を活用した取組の推進」

- ・自然環境の保全と並行して、自然を活かした取組も進めてもらいたい。具体的には、明石の海岸線は、近隣の神戸や加古川にもない明石の宝物である。サイクリングロードは県が所管しているとお聞きしているが、素晴らしい眺望をいかしたサイクリングロードの整備や様々な取組を展開してもらいたい。県との調整が肝要と考える。明石の海の近くに住みたいということで、明石に住んでいる人もいるぐらいなので、海岸線が整備されれば、明石に住む人の生活の質を上げることになると思う。

■ 効率的・効果的な行政運営【市民と共にまちを創る】

○「ＳＤＧｓの推進」

- ・ＳＤＧｓは、企業では取り組まないわけにはいかないし、取り組んでいるが、中小企業ではなかなかそうはなっていない。2030年のゴール達成に向けて、さらにみんなで取組を進めていく必要がある。

■ 効率的・効果的な行政運営【持続可能で自立した行政経営を推進する】

○「兵庫県など他都市との連携」

- ・今までの審議会でも発言してきたが、兵庫県との連携を進める必要があると感じていたので、このたび、明石港東外港地区について、県と共に協定を締結し、取組を進めていくということは、良い方向に進んでいると感じる。

○「職員間における情報共有」

- ・取組を進める上で、現場の職員との情報の共有はどのようにしているのか。現場の職員が取り残されていないのか心配である。

■ その他

○「個別計画との関係」

- ・すべての事項を戦略計画に記載することはできないことは理解するが、この計画は、個別計画の先導的な役割もあるものと理解している。本計画と個別計画がどのようにリンクしているのかわかるようにしてもらえるといいのではないか。

○「条例の記載」

- ・インクルーシブ条例など条例が策定されてきた経緯を載せてほしい。
- ・すべての条例でなくてもよいが、明石市には全国に先駆けて制定した素晴らしい条例がたくさんある。この計画を見た市民がそうした条例まで知ることができるようにすれば良いと思う。

○用語集

- ・横文字やカタカナが多いと、高齢者には入りにくいので、最後に用語集を入れる方

がよいのではないか。

■ 今後の進め方

- ・いろんな問題が審議会で出て、私ははっきりと反対といった。ヒアリングで、個々の意見を聞いて、賛成、反対と確認していくのか。どうやって進めていくつもりなのか。一番大事なのは審議ではないか。十分に審議しないで素案を作つて提示して、また、ヒアリングをして、11月に案をいきなり出すと思うが、もう一度、会議を開いて、議論を尽くすべきではないか。きちんと審議した上で、決定していく必要がある。
- ・11月30日までにきちんとした審議会でなくとも、一度、案を作る前に、みんなで集まって、意見を出し合つた方がいいのではないか。きちんと一度、会議を開いていただきたい。
- ・市長のまちづくりの思いを明石市の最高峰の計画に位置付けようと思うんだったら、その説明を委員に直接するという判断はしないのか。
- ・前回の長期総合計画を策定したときは、前市長がコロナの影響もあって、各委員を数名のグループに分けて、個別に意見交換の時間をとつて、まちづくりの思いや各委員の思いを聞いてもらつた。審議会の委員として、市長と直に膝を突き合わせて、意見が言いたい。市長自身が会議に出て、審議会の空気がどうなのか知つてもらいたい。

■ 事務局の出席者

- ・財政の話も直接、財務担当から話も聞きたい。明石市の財政が本当に大丈夫なのか。すごく心配である。政策局だけで、回答できないことも多いと思うので、考えてもらいたい。文書で回答することも可能と考えるが、そうであれば、しっかりとしたり取りが必要。